

ODIP 4.3 修正パッチ (P1040305005766) リリースノート

2023/11/1

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定	4
2. SQL 文に改行が含まれていると dbaccess.log に出力されない問題を修正.....	4
B. パッチ適用による影響	5
1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響	5
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイルの更新.....	6
2. パッチ適用後の確認.....	6

A. 変更内容

1. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定

(1) dbaccess.log に出力するフィルタを正規表現で指定するよう改定

ODIP が実行する SQL 文を dbaccess.log に出力するフィルタにおいて、従来はオプション (server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include) で指定した文字列と部分一致する SQL 文をフィルタ対象としていましたが、改定後はオプションに正規表現を指定して、正規表現の文字列パターンに一致する SQL 文をフィルタ対象とするよう改定しました。正規表現で特殊文字 (半角アスタリスク、半角括弧等) を文字として認識させたい場合、"`¥¥`" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。

従来と同様、複数の文字列パターンを指定する場合は半角カンマで区切ります。パターンに半角カンマを含むことはできません。

(2) server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更

ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更しました。

変更前の既定値、初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = COUNT(*)
```

```
server.dblog.filter.include = SELECT,DELETE,CREATE,DROP,RENAME
```

変更後の既定値)

```
server.dblog.filter.exclude =
```

```
server.dblog.filter.include =
```

変更後の初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = .*COUNT¥¥(¥¥*¥¥).*,^INSERT.*,^UPDATE.*,^MERGE.*
```

```
server.dblog.filter.include =
```

※server.dblog.filter.include の設定値が空文字、もしくはオプション自体の設定がない場合は、server.dblog.filter.exclude で除外された以外の全ての SQL 文が出力対象となります。

2. SQL 文に改行が含まれていると dbaccess.log に出力されない問題を修正

ODIP が実行する SQL 文に改行が含まれていると、dbaccess.log に出力されない問題を修正しました。

B. パッチ適用による影響

1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響

dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴い、ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include にフィルタ設定をしている場合、設定の変更が必要になる事があります。

例えば、INSERT 文をフィルタの対象としていた場合、従来は"INSERT"と設定してあれば部分一致でフィルタ対象となっておりましたが、改定後は正規表現で「^INSERT.*」(INSERT で始まる文字列)と設定する必要があります。また、"COUNT(*)"など、含まれる特殊文字を文字として認識させる場合、改定後は正規表現で「COUNT¥¥(¥¥*¥¥)」といったように"¥¥" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。正規表現の指定に誤りがあると、ODIP トランスフォーマ起動時にエラーとなります。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.3
- ODIP オペレーションマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリマネージャ v4.3
- ODIP プロセスマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリサーバ v4.3
- ODIP トランスフォーマ v4.3

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040305005766 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040305005766 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040305005766	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040305005766 であることを確認してください。

以上